

令和 6 年度
「第 1 回ペット同行避難訓練」
報告書

令和 6(2024)年 12 月
豊島区 健康部 生活衛生課

目 次

1.実施概要	1
2.参加者	2
3.当日のプログラム	2
4.当日の会場の様子	3
5.総括	4
6.次回への取り組み	4
7.川上麻衣子さんからの感想	5
8.来場者のアンケート結果（概要）	6
資料1 ペット同行避難訓練アンケート結果	7

第 1 回ペット同行避難訓練報告書

1. 実施概要

日 時	令和 6 年 12 月 1 日（日） 9:00～11:00 (8:30 より受付実施)
場 所	目白小学校
実施の目的	1. 豊島区はペット同行避難が可能であることの周知 2. 区民がペット同行避難の体験し手順等を確認 3. ペット同行避難手順の検証
内 容	・ 動物避難所開設に必要な資材、保管場所の説明及び確認 ・ 豊島区で作成したミッション一覧に沿って動物避難所の開設までの手順を説明、模擬訓練
対 象	目白小学校を救援センターとする犬・猫を飼っている区民
周知方法	・ 広報としま 11 月 1 日号掲載 ・ 畜犬登録台帳から対象とする区民に通知を送付（209 軒） ・ 防災危機管理課経由で対象の町会(5 町会)へ通知
協力団体	・ 東京都獣医師会 豊島支部会長 ・ p. a. n. d. a. 研究室 （5 名参加） ・ 目白ペット倶楽部 （7 名参加） ・ アニマルレスキュー池袋本町 （2 名参加）
その他	・ 防災危機管理課主催の町会対象の救援センター開設・運営訓練と同時に実施。 ・ 豊島区で初開催の為、地域住民参加のほか、見学者も募集した。 ・ 俳優の川上麻衣子氏も参加した。

2. 参加者

	訓練参加者	見学者 (区民)	見学者 (区議・関係者)	合計
来場者数	26 名 (18 組)	14 名	16 名	56 名
同行ペット数	犬 14 匹 猫 1 匹			15 匹

3. 当日のプログラム

時 間	内 容
9 : 00	①開会挨拶・訓練全体説明
9 : 05～9 : 20	②ペット同行避難訓練説明
	～ペットを置いて全員移動～
9 : 20	③屋外動物避難所の確認 ④防災倉庫のペット用備蓄の場所確認
	～全員、外階段から 2 階昇降口へ移動～
9 : 30～9 : 45	⑤ 2 階昇降口で「ペット同行避難者受付窓口」の設営 ⑥受付方法の確認
9 : 45～10:45	⑦ 2 階の「動物避難所」の設営訓練 ※設営の間もパソコン教室にペットを置いておく
10 : 45	訓練終了
10 : 45	アンケートの記入・質疑応答
11 : 00	解散

4. 当日の会場の様子



①②訓練全体・ペット同行避難訓練説明



③屋外動物避難所の確認



④防災倉庫のペット用備蓄の場所確認



⑤ペット同行避難者受付窓口
⑥受付方法の確認



⑦動物避難所の設営

5. 総括

1. 訓練参加者がペット同行避難訓練に対して関心が高く、アンケートの結果はおおむね好評だった。
2. 「同行避難できることを初めて知った」との参加者の声が多かった。
3. 在宅避難がいいと感じた人が多かった。
4. 自宅にペット用の防災資器材品（エサ・ペットシート等）の備蓄をしている人が想定より少なかった（約 1/3 の家庭で「備蓄なし」と回答。「多少備蓄」を含めると約 3/4 の家庭で備蓄が十分ではなかった）。
5. 「動物避難所の設営と運営を、避難者自身でやることが不安」との声が多かった。
6. 協力団体と事前に訓練のシミュレーションをやったことで、当日はスムーズに運営できた。
7. 参加人数が多くツアーを職員 2 名では対応することが困難だった。
8. 救援センターの基本情報の周知が不足していた。

6. 次回への取り組み

1. 同行避難の周知
「豊島区の避難所は同行避難が可能であること」を複数の媒体で周知する。
2. ペット用防災資器材の備蓄啓発
日ごろから、自宅にペット用の防災資器材品を備えるよう、周知する
3. 動物避難所設営・運営への不安の対応
 - ・事前に訓練参加者に対し、ペット同行避難に関しての講習等を行った上で、実際の避難所で実地訓練を行うようにする。
 - ・事前講習については、動画の活用を検討する。
 - ・ミッションカード等、実際に避難所設営で使用するツールを、予め区ホームページで公開し、いつでも見られるようにする。また、その周知を行う。
 - ・ツールの使い方に関する動画も、区ホームページで公開する
4. 訓練実施関係
 - ・同行できない動物のリストについては、参加者の意見を聞きながら修正する。
 - ・ツアーは生活衛生課 2 名、防災危機管理課 1 名のセットで対応することを検討し、救援センターの基本情報に関しては、防災危機管理課職員が説明できるようにする。
 - ・人数が多い場合は、グループを複数に分ける。

7. 川上麻衣子さんからの感想(俳優・一般社団法人ねこと今日・代表理事)

『12月1日ペット同行避難訓練を見学させて頂きました。

動物愛護週間のイベントにて、豊島区高島みゆき区長とのご縁をいただき、楽しく対談をさせていただいた際に、豊島区で初めてのペット同行避難訓練を行うことを伺いました。

日頃から被災した際のペット（特に猫）の対応については、全く予備知識がなかったこともあり、見学させていただくことにしました。

12月1日当日は快晴に恵まれ、広々とした小学校でゆっくりと様子を見学させていただきました。

参加者のほとんどの方が、犬を連れての参加でしたが、皆さんのとても真剣な様子がとても印象的でした。

被災した場合、スタッフが圧倒的に少なくなる状況で、ペット同行被災者自身が積極的に行動しなければならないこと、基本は自宅の安全が確保されている状況であればペットのストレスを考えた上でも自宅を動かないことがベストだということ、避難所では、動物が苦手な方やアレルギーのある方も共に過ごさなければならない環境であることを重視しなければならないことから、やはり日頃から、地域のコミュニティーをしっかりと取っておくことが改めて必要だということを認識しました。

また、小学校の下水道のマンホールが簡易トイレとして使用できるシステムは初めて知りました。

今回は、このような機会を頂き、また、参加させていただき、本当にありがとうございました。』

川上 麻衣子
(俳優・一般社団法人 ねこと今日・代表理事)



8. 来場者のアンケート結果（概要）

詳細は資料1参照

自由意見の内容（抜粋）

ポジティブ	・本日参加されなかった方々にも同様の内容を伝えたいと感じた。 ・倉庫内の備蓄が少ないので避難セットは作っておきたい。 ・犬猫の避難ができるのを知り安心した。 ・参加者からの質問が多く関心の高さが伺えた。良い機会だった。 ・住民が自主的に協力的にやれる様な関係を普段から作って置くことが必要と感じた。 ・災害時を想定した訓練ができてよかった。
ネガティブ	・獣医師会が救援センターにどう関わっていくのか。そのあたりを説明してもらえると安心できる。 ・質疑応答の時間を設けることを冒頭に伝えておいた方が円滑に進行できると感じた。 ・質疑応答が想定外に長引いた。あまりにも想定外の場合、別の時間にしてほしい。 ・ミッションカードは事前に伝えておかないと発災時では無理だと思う。

ペット同行避難訓練アンケート結果（回答数 25 名）

■記入者情報

性別	女性	19	男性	6	その他/無回答	0
年齢	20代	1	30代	3	40代	1
	50代	11	60代	5	70代	2
	80代	1	無回答	1		

■訓練について

1. 訓練の説明はいかがでしたか？	とても分かりやすかった	10	分かりやすかった	11	普通	3	分かりにくかった	1
2. 訓練の内容及び取扱いについては理解されましたか？	理解した	12	概ね理解した	13	あまり理解できなかった	0	全く理解できなかった	0
3. ミッションカードについて理解されましたか。	理解した	9	概ね理解した	16	あまり理解できなかった	0	全く理解できなかった	0
4. 救援センター開設・運営を行う上で不安に思うことは何ですか？	動物避難所の開設要領	3	動物避難所運営要領	3	動物避難所受け付け要領	3	動物救護チーム立上げ・運営要領	5
	一般避難者からの動物への苦情対応	11	飼い主からの苦情対応	10	自分のペットへの対応（離れるのが不安等）	12	放浪動物への対応	7
	動物の病気・感染症	10	その他	1	無回答	2		
5. 今後、救援センターの備蓄倉庫に新たに備えておいたほうが良いと思われる資器材を選んでください？	ペットフード（犬猫以外）	2	お散歩袋	3	犬猫用おむつ	11	小型のペットケージ	9
	獣医療薬（消毒・包帯・塗り薬 等）	10	猫砂（トイレ）	3	その他	3	無回答	4
6. ペット用非常持ち出し袋の備蓄をしているか	備蓄している	5	多少備蓄している	11	何もしていない	8	無回答	1
7. 今回の訓練の内容について、知り合いにも伝えたいですか	ぜひ伝えたい	10	伝えたい	11	どちらともいえない	2	伝えたいと思わない	0
	無回答	2						

自由意見

- ・基本は自宅にとどまる予定だが、避難所にも同行避難が可能ということは避難判断するにあたり頭に入れておきたい、家族などにも知らせておきたい。
- ・基本的にペットの意識をあげていくことが大事と感じた。住民が自主的に協力的にやれる様な関係を普段から作って置くことが必要と感じた。今回の訓練は意義があると思った。
- ・参加者からの質問が多く関心の高さが伺えた。とても良い機会だった。
- ・ペットは家族なので、発災時の対応は平時より想定はしているが、学校で地域の方が集まり訓練できることで日常からコミュニケーションをとれるようになるとうい。
- ・獣医師会が救援センターにどうかかわっていくのか。そのあたりを説明してもらえると安心できる。
- ・猫を飼っており、いざという時は在宅避難かと思っていたが、やはりという感じだった。
- ・ペット運営チームの事前準備への参加を訓練のアンケートできくとよい。
- ・ペット避難運営の経験者の講和などで運営チーム参加の促進を図れたらよい。
- ・わんわんパトロールのチームがいてうらやましい。
- ・ミッションカードは事前に伝えておかないと発災時では無理だと思う。
- ・ケージ内でおとなしくさせるのは大変だった。
- ・倉庫内の備蓄がかなり少ないので避難セットは作っておきたい。
- ・質疑応答の時間を設けることを冒頭に伝えておいた方が円滑に進行できると感じた。
- ・本日参加されなかった方々にも同様の内容を伝えたいと感じた。
- ・実際の避難場所や物資を直接見ることができて避難した際のイメージができた。
- ・ペットを家族同様と思っている人が多いため救助や生活の優先度を人>犬と考えることが難しい方が多いように感じた。
- ・我慢することや希望を持つことを皆で分けあって一人一人がルールを守ることが必要と感じた。
- ・自分で犬の避難グッズを常に用意しておくことが大切だと思った。
- ・犬猫の避難ができるのを知り安心した。
- ・発災時にペットを飼っていると避難ができないと思っていたので訓練を体験して良かった。
- ・発災時には色々な人がいるのでとても大変だと痛感した。日頃から備蓄するようしたいと思う。
- ・質疑応答が想定外に長引いた。あまりにも想定外の場合、別の時間にしてほしい。
- ・とても良かった。またやってほしい。他の方にも広めたい。
- ・学習院が避難所だと思っていた。
- ・ペットの避難について知識がなかったので大変勉強になった。
- ・できるだけ自宅で何とかできるようにしたいと思った。
- ・狂犬病の登録の際などに避難所でできること、できないことを教えてくれるパンフレットなどあるとういと思った。
- ・受け入れられないペットの飼い主に対して情報を発信することが大事だと思った。
- ・なるべく備蓄して自宅で過ごしたいと思った。
- ・災害時を想定した訓練ができてよかった。
- ・ペット用の防災リュックを作ろうと思った。

令和 6 年度

「第 1 回ペット同行避難訓練」

報告書

令和 6(2024)年 12 月

＜事務局＞

豊島区 健康部 生活衛生課 生活衛生グループ

〒171-0013

東京都豊島区東池袋 4 丁目 4 2 番 1 6 号

豊島区池袋保健所 2F

TEL 03-3987-4175(グループ直通)

FAX 03-3981-5452

Mail A0017000@city.toshima.lg.jp